

体験的理解を深める教育課程の創造



国際交流

アメリカス市からの訪問団との交流会

今年度も、姉妹都市であるアメリカス市からの訪問団と全学年が交流しました。单元の中で学習した内容を使って、児童が主体となってプレゼンテーションをしたり、ゲームをしたりしてコミュニケーションを楽しみました。

1・2年生
名刺交換をした後、「BINGO」の歌を歌ったり、「おいでよ甲奴へ」を一緒に踊ったりしました。



3・4年生
3年生が名刺交換の説明をし、4年生がゲームの説明をしました。一緒に「What time is it, Mr. Wolf」や「Freeze Tag」を楽しみました。

5・6年生
配られた誕生日カードを見て、その誕生日の人を探し、相手の欲しいものを尋ね合う活動をしました。また、日本の行事や遊びを紹介し、一緒に楽しみました。



外国語環境整備

カリキュラム・マネジメント

英語活動・外国語活動のほとんどの单元を他教科等と関連させています。高学年は修学旅行や社会見学でも、英語を使って外国語の方と話す機会を設定しました。



校内放送

朝の放送では、日付や曜日を英語で放送しています。同時に英語の歌を流していますが、いつの間にか聞き慣れて一緒に口ずさんでいる姿をよく見かけます。

また、保健体育委員会が、お昼の放送の最後に、給食に関するものから選んだ言葉の一つ、「Today's word is ○○.」と放送しています。知らない単語でも、児童は給食の食材などと関連付けて、推測しながら聞いています。

ICTの活用

デジタルコンテンツやインターネットなどを授業で活用。場面設定のある短い会話を聞いたり、歌やチャツツで慣れ親しんだりしています。また、実際の世界の様子を見たり、情報を調べたりもしています。



掲示物

体育館や廊下には、英語のゲームコーナー。また、校舎内の目に付くところに英語の掲示物。英語に慣れ親しむ環境づくりをしています。



成果と課題

このような取組を行ってきた成果として、3～6年生に行ったアンケート調査では肯定的評価(とてもあてはまる、ややあてはまる)が、昨年と同様に全体として非常に高くなっています。

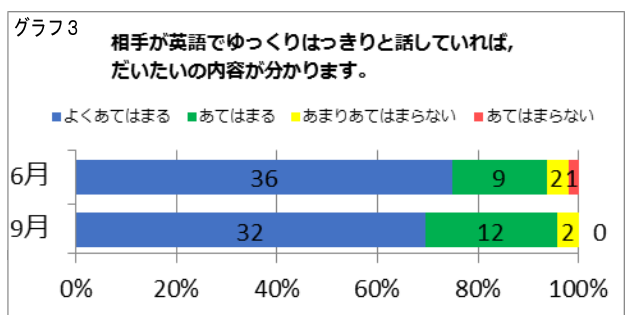
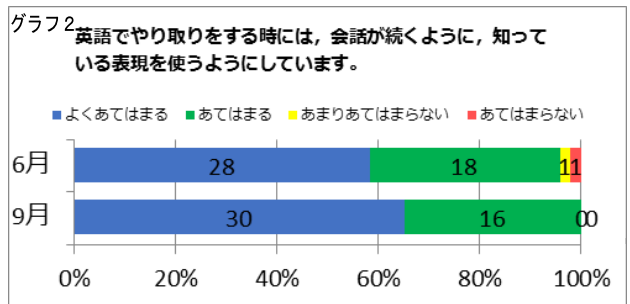
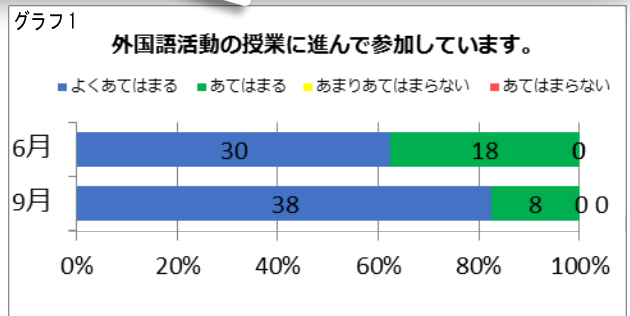
関心・意欲に関する項目では、全員が肯定的回答をしており、学習への意欲が高いことが伺えます。(グラフ1)

また、「やり取り」に関する項目においても、「とてもあてはまる」と答えた児童の割合が6月に実施したアンケート結果を上回っており、向上が見られました。(グラフ2)

しかしながら、英語表現を聞いて内容を推測することに関する項目で「とてもあてはまる」と回答した児童の割合が6月に比べて減少しています。(グラフ3) 昨年度もこの項目では同様の推移が見られましたが、学年末には回復しました。これは、年度の中頃に学習する单元では、児童にとって推測しづらい新しい表現を多く扱うものが続き、学年末になるとそれらの表現に慣れてくるためと分析しています。

これらの結果から、「これはこういう意味だ」ということが明確にならなくても、その曖昧さに耐え、やり取りを何とか続けようとし、学習に積極的に取り組もうとする姿勢が育っていると考えます。

今後も引き続き、児童が「話したい、表現したい」と思える学習活動とはどんなものかをさらに探求していくこと、学習の評価をどのように行うかを具体的に、指導に反映していくこと、指導者の英語力向上のための研修を進めることに重点を置き、研修を積んでいきます。



令和元年度 小学校外国語パワーアップ事業指定校

三次市立甲奴小学校外国語活動公開研究会 研究紀要



アメリカス市訪問団との交流会

研究主題

「ふるさと甲奴を誇りに思い、
主体的に学ぶ子供を育てる授業の創造」
～対話を生かす外国語活動をとおして～

Konu
Elementary
School
November 8th, 2019